

平成20年度 第2回磯子区地域福祉保健計画推進委員会議事録	
開催日時	平成20年11月25日(火) 午後6時30分から午後8時05分まで
開催場所	磯子区役所 701号会議室
出席者	<p>&lt;委員&gt;</p> <p>吉田委員長・鈴木副委員長・佐々副委員長            関委員・上杉委員・三澤委員・水越委員・中里委員・堤委員・櫻井委員・小宮山委員            時任委員・矢野委員・嘉代委員</p> <p>&lt;事務局&gt;</p> <p>区：宇賀神センター長・高柳担当部長・林福祉保健課長・関本地域振興課長            中村事業企画係長・重松活動支援係長・伊東(秀) 職員・小林職員・近藤職員            伊東(ゆ) 職員・小先職員</p> <p>区社協：内藤事務局長・中島次長・谷口職員</p> <p>&lt;オブザーバー(ケアプラザ)&gt;</p> <p>長谷川職員(根岸)・高橋職員(滝頭)・水村職員(磯子)・岸本職員(新杉田)            松田職員(洋光台)</p>
欠席者	佐藤委員・福士委員・濱田委員・関野委員・岩瀬委員・大平委員・野田委員
議事	<p>・ センター長あいさつ</p> <p>1 あなたの提案実現事業について            20年度助成事業の経過及び過年度助成事業の現況について、事務局から説明(資料1)</p> <p>&lt;意見等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「子育て支援事業ステップアップ講座」を実施しているが、地域に徐々に浸透してきていると感じている。申込者も増えており、3回目の講座はキャンセル待ちとなっている。多くの人に関心を持ってもらうとともに、自分たち自身の研修の場にもなり、事業を実施して良かったと思っている。困っていることとしては、場所の確保が大変だということ。ケアプラザの会場を取るためには他団体と同じように申し込まなくてはならず、確保できるまでは不安である。また、打ち合わせ場所を探すのも大変である。</li> <li>・ 次年度への継続事業は「子育て支援事業ステップアップ講座」のみとなるため、新規事業を掘り起こすアイデアなどについて、次回の委員会で話し合えたらよいのでは。</li> <li>・ 「思い出語りをききます隊」の事業を実施しているが、今年度で助成が終了してしまうため、新しく講座に参加した人たちを来年度以降の活動にどうつなげていくかが課題である。推進委員会の中で皆さんと一緒に考えていきたい。</li> </ul> <p>2 しあわせバンクについて            しあわせバンクの進捗状況について、事務局から説明(資料2・「しあわせバンクの解説書」)</p> <p>&lt;意見等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ しあわせバンクの窓口は、ケアプラザのコーディネーターの役割と似ているように思うが、コーディネーターとは別に配置するという事か。            → 助成金には人件費も含まれている。人の配置については、ケアプラザと相談しながら</li> </ul>

考えていきたい。

- 地域への周知はどのように行っているのか。  
→ まず、しあわせバンクの協力者を募集するチラシを回覧することから始めた。今後、どのように広報を行っていくかについては、「ハッピー根岸推進委員会」やケアプラザと一緒に検討していきたいと考えている。
- 地域の人たちはどのように受け止めているのか。  
→ しあわせバンクを設立するにあたり、行政としては形からつくっていかうとしたが、地域の人たちは、誰がどんなことで困っているのかを考え、「ゴミ出しカレンダー」のアイデアが出てきた。協力者への呼びかけについても自主的に考えており、地域の力を感じているところである。
- しあわせバンクは名前からは内容がわかりづらいので、サブタイトルをつけるなどしてわかりやすくすることが必要だと思う。
- たとえばゴミ出しを頼んだ場合、費用はどれくらいかかるのか。  
→ 「磯子ねこの手」（地域の在宅福祉グループ）などにつなげた場合は有料になるが、町内会で対応できる場合は無料になる。
- 無料で対応できればいいが、無料だとどんどん要求が来てしまい、続けるのが大変になる。子育て支援グループの「いそっこ」では有料で子どもの一時預かりをしているが、コーディネートに苦慮している。結びつけるいい方法があれば、ぜひ教えてほしいと思う。
- 計画策定の時からしあわせバンクがどのように進むのか気になっていたが、一歩進んだことはよかったと思う。

### 3 意識調査アンケートについて

根岸地区で実施している意識調査アンケート及び次期計画策定スケジュール案について、事務局から説明（資料3）

<意見等>

- アンケートは今後全地区で実施する予定なのか。  
→ 21年度以降に全地区で実施する予定だが、他地区の調査方法については、根岸地区の結果を見ながら検討していきたいと考えている。
- 今回はしあわせバンクを実施していることから根岸地区が選ばれたとのことだが、地域の特性も含めて、結果を分析・報告してほしいと思う。
- 現行計画を策定する際は各地区で検討会を開催したが、次期計画を策定する前に意識調査を行うことで、さらにきめ細かく区民の意見を聞けるのではと思う。

### 4 旧氷取沢小学校の後利用計画について

旧氷取沢小学校の後利用計画及び今後の想定スケジュールについて、事務局から説明（資料4）

<意見等>

- 磯子区内のケアプラザの配置計画はどのようになっているのか。  
→ 原則は中学校区に1ヶ所となっているが、今回は廃校になった氷取沢小学校の跡地を

利用することから、上笹下地域に7館目のケアプラザを配置することになった。磯子区のケアプラザは7館計画となっているため、今回で完了となる。

- ・ 特別養護老人ホームの運営法人が高知県の法人となっているが、横浜市全体で県外法人が増えているように思う。市内でがんばっている法人をぜひ選んでほしいという気持ちがある。

## 5 その他

### (1) みんな集まれ！「ふくしの広場」

11月30日開催の「みんな集まれ！『ふくしの広場』」について、事務局から説明（資料5）

### (2) 第4期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画

第4期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の素案の概要及び区民説明会の開催予定について、事務局から説明（資料6・計画素案冊子）

#### <意見等>

- ・ この計画は全市的なものなのか。  
→ 計画は横浜市として策定するが、説明会を各区で開催する。
- ・ 区民への周知はどのように行っているのか。  
→ 広報よこはま11月号に掲載したほか、区連会を通じて各自治会町内会にも広報している。
- ・ パブリック・コメントを実施することだが、どのような方法をとるのか。  
→ 素案冊子の裏表紙にハガキをつけている。意見募集期間は21年1月19日まで。
- ・ このような計画には意見が出にくいのではと思うが、第3期計画のときにはどのくらい意見が寄せられたのか。  
→ 意見の件数はこちらでは把握していない。（追記：第3期計画素案への意見数は215件）
- ・ 第4期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画では、保険料が現行の4,150円から4,900円程度になるということだが、値上げすることで目標が本当に達成できるのか疑問に感じる。

### (3) 行列のできる！チラシづくり講座

21年1月20日開催の講座について、事務局から説明（資料7）

### (4) 区民活動支援センターについて

磯子区区民活動支援センター設置に向けた検討報告書について、事務局から説明（資料8）

#### <意見等>

- ・ 区民活動支援センターは、しあわせバンクの全区版として考えてよいのか。  
→ 区民活動支援センターは、地区センター、コミュニティハウス、ケアプラザなど地域で活動している人たちを結びつけていくものであり、しあわせバンクとも連携していくことが求められると考えている。

- ・ 区社協のボランティアセンターとの関係についてはどう考えているか。  
→ ボランティアセンターは福祉分野に強みがあり、現在も生涯学習支援センターと連携をとっているが、今後もさらに連携を深めていきたいと考えている。
- ・ 今回の検討報告書は（案）となっているが、成案に近いものと考えてよいか。  
→ 現在、区連会等で意見聴取をしているところであり、12月中旬までにご意見を頂きたいと考えている。センターを今年度中に設置し、4月から業務を開始する予定である。
- ・ 区民活動支援センターは、現在の生涯学習支援センターより幅広い分野を対象としていくものだと思うので、まちづくりなどの新しい活動も活動例に入れてほしい。

<その他意見等>

- ・ 推進委員会が事務局からの報告事項のみで進められていることを懸念している。策定時には進捗状況を把握することができていたが、年3回の会議ではなかなか意見を出すこともできない。今後、この委員会がもっと活発になればよいと思う。
- ・ 当日資料を見て、すぐに意見を出すのは難しい。事前に資料を送付してもらえれば意見を出しやすいと思うので、ぜひ検討してほしい。

- ・ 担当部長あいさつ

あなたの提案実現事業は、形を工夫しながら継続していきたいと考えている。しあわせバンクについては、一步進むことができた。当初、区単位を想定していたが、地域の方々の意見を聞く中で、地域単位で設置することが現実的とわかり、根岸地区でスタートすることができた。こうした現場性に基づいて、他地区へも身近な地域で支えあう仕組みづくりを広めていきたい。次期計画に向けては、策定委員会を設置し、前回のように地域の皆さんと一緒に話し合いながら計画づくりを進めていきたいと考えているので、これからもご協力をお願いします。